

2年次の学修について

2年生の皆さん、進級おめでとうございます。

大学入学から1年が経ちましたが、大学生活に慣れるのに時間がかかった人も、目新しいことが多くてあっという間に時が過ぎた人もいるのではないのでしょうか？2年次からは、いよいよ白金キャンパスが皆さんの学生生活の拠点となります。人によっては、通学の状況や学習環境が大きく変わるため、順応するのに時間を要するかもしれませんが、卒業時まで過ごす学び舎ですので、まずは早めに慣れてくださることを期待しています。

学習面からみると、2年次は、これから専門性の高い薬学の諸分野を習得し始めるにあたって、その土台をなす基礎的な専門科目の講義と実習が始まります。学習内容は極めて広範で科目数も多く、かつスケジュールもタイトなので、まずは規則正しい生活と心身の健康を維持して、授業に休まず積極的に参加すると共に、わからないところを先送りすることなくその場で解決しつつ、日々の予習・復習を心がけましょう。定期試験前の一夜漬けでは全く対応できない学習量だとはっきり申し上げておきます。また、より実践的な研究や臨床医療の一端に触れる機会も徐々に増えてきます。将来を見据えて幅広い知識と豊かな人間性を獲得できるよう、今できることを主体的に考えて行動してみましょう。

各学科において特徴的な科目も開講されます。例えば、薬学科においては、「社会薬学実習」（生命創薬科学科は選択科目）があります。ここでは、初期救命処置や服薬不自由体験実習をはじめ、災害時医療、薬害、薬物乱用等に関する事例に触れ、グループワーク、討議、発表を通して、将来、医療人になるための基盤となる生命の尊厳や医療プロフェッショナルリズムについて考える機会が与えられます。

生命創薬科学科の「生命創薬科学Ⅰ・Ⅱ」では、本学部の基礎系研究室で展開されている最新の研究内容が一通り紹介されます。この講義を通じて、改めて薬学が如何に集学的な学問で、様々な角度からの研究が本学で展開されていることを実感すると思います。生命創薬科学科の皆さんは、3年次後半から特定の研究室に配属され、卒業研究がスタートします。配属先を決める際には、本科目で学んだことを参考にしてみてください。そして興味を持った研究室があれば、積極的に研究室を訪問することをお勧めします。研究室を見学したり、先生方や先輩方の生の声を直接聞いたりすることで、自分の将来像や興味の方向性が見えてくると思います。薬学科の皆さんは、研究室配属は4年次からですが、早期から研究室を訪問して、自分がやりたいことを予め見つけておくと、スムーズに配属できると思います。

このように本学では、いずれの学科においても、多様な基礎科目を学びつつ、早期から研究や医療の専門領域に触れる機会も大切にしています。薬学の専門性は、知識面も人格面も基礎からの積み重ねで培われていくため、本学のカリキュラムもそれを考慮して体系的に構成されています。2年次の学修内容は、まさにその土台となる部分にあたります。ここがおろそかになってしまうと、学年が進むにつれてほころびが生じてしまうので、しっかりと知識と人間力の両方を高められるよう、積極的に講義・実習に臨んでください。

もし学修や学生生活で困ったことがあれば、チューター・学年主任の教員、学生相談室の先生等多くの窓口がありますので、遠慮なくご相談ください。皆さんの2年次が充実したものになることを祈念いたします。

2026年度2年次学年主任

前田 和哉（薬剤学教室・教授）

3年次の学修について

新3年生の皆さん、進級おめでとうございます。

相模原キャンパスでの1年次、白金キャンパスでの2年次を終え、北里大学薬学部の全体像が見えてきたことと思います。2年次では、講義や実習の内容が「薬学」に関する専門性の高いものを中心となり、薬学部ならではの教育を実感できたのではないのでしょうか。

3年次になると、薬学科・生命創薬科学科ともに、薬理学、衛生化学、公衆衛生学、薬剤学、臨床系科目など、より専門的で高度な科目が開講されます。2年次までに習得した物理系・化学系・生物系の基礎知識が、3年次の専門科目とどのように結びつくかに着目すれば、新たな気づきが得られるはずです。

薬学科では、キャリア教育の一環としてシラバスに臨床系科目が増え、医療に関する知識や医療人に必要な倫理観・社会性をより深く学べます。また、3年次に「プレ特別実習」制度を利用すると、早期に研究体験が可能です。講義・実習のない時間帯や休暇を活用した研究体験は、4年次に研究室を選ぶ際に大いに役立ちます。興味のある研究分野や研究室があれば、教員に話を聞くほか、研究室訪問や先輩からの情報収集を通じて実際の雰囲気を感じ取ってみてください。

生命創薬科学科では、創薬情報科学、理論分子設計学、創薬化学といった本学独自の講義に加え、臨床系科目を含む多数の選択科目が開講されます。これらを履修すれば、研究者として必要な知識だけでなく、薬学・特に医療薬学の知見も身につけ、就職先の選択や就職活動に有利になります。薬学系の専門知識は、理工農学部などの生命科学系学科出身者と就職枠を争う際のアピール材料にもなります。3年次後期からは研究室に配属され、卒業研究が始まります。さまざまな研究室を見学し、教員や先輩方の話を聞いて研究分野を把握したうえで、自分がどの分野に興味を持つか整理し、慎重に決めてください。

最後に、皆さんは2年次を修了した時点で全員20歳になっています。ご存知のとおり、20歳になると飲酒・喫煙・公営競技（競馬等）や中型・大型自動車免許の取得、養子縁組が可能になるなど、できることが増える一方で、国民健康保険料の納付義務が発生したり、少年法の適用除外となったりと、新たな責任も生じます。飲酒・喫煙・ギャンブルにのめり込んだり、犯罪行為に巻き込まれないよう、自己管理を徹底してください。

2026年度3年次学年主任

田中 信忠（創薬物理化学教室・教授）

4年次の学修について

4年生の皆さん、進級おめでとうございます。

大学に入学してから3年が過ぎ、生命創薬科学科の皆さんは最高学年に、薬学科の皆さんは、これまでに以上に薬剤師としての実践的な能力を修得していく学年となりました。

生命創薬科学科では、配属研究室における卒業特別実習が本格的に行われ、卒業研究と卒業論文の完成を目標に、実験・研究に追われる日々となることでしょう。1年間の卒業研究は、薬学研究に関する知識や技能、問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養うための大変よい機会となります。探求心をもってしっかり取り組み、卒業論文を仕上げてください。また忙しい日々の中で、自分の将来の進路についても熟考し、大学院に進学するのか、大学院修了後はどうするのか、あるいは就職するのか、就職するならどのような職種をめざすのかを決定しなければなりません。考えるためには情報収集も必要です。皆さんそれぞれが希望する進路に進まれることを願っています。有意義な1年になることを期待しています。

薬学科では、4年次2月から開始する実務実習の事前学習として、通年で「病院・薬局実習事前実習」を行い、薬剤師業務に必要な基本的知識・技能・態度を修得していきます。12月には薬学共用試験のOSCEとCBTがありますが、両試験に合格して初めて病院・薬局実習を行うことができます。OSCEに合格するためには、病院・薬局実習事前実習にしっかり取り組むことが必要です。CBTは基本的に自己学習で対策を行いますが、体験受験や模擬試験で修得度を確認しながら、早めに対策を始めることが大切です。全員合格を目指して頑張りましょう。また7月には、卒業特別実習を行う配属研究室が決定します。各研究室の特徴を理解し、自分が興味のある研究分野を考慮しながら選択するとよいでしょう。基礎薬学と臨床薬学を体系的に学び、医療人に必要な倫理観や社会性を修得されることを期待します。

この1年、幅広い知識と深い専門知識や技能を身につけるため、自己研鑽を続け更に成長されることを期待しています。将来に向けての目標も見据えながら、一步一步確実に積み重ねていってください。皆さんが充実した4年次を過ごされることを祈念いたします。

2026年度4年次学年主任

久保田 理恵（臨床薬学教育部門・教授）

5年次の学修について

新5年生の皆さん、進級おめでとうございます。薬学共用試験（OSCE、CBT）を終え、新学期を迎えることができたことを大変嬉しく思います。

5年次は、病院と薬局実習が始まりいよいよ薬剤師としての業務の実際を知ることができる学年です。一部の方は既に始まっていますが、保険薬局実習では、薬局薬剤師としての業務（保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談など）の他、地域医療に参画するための基本的な知識、技能、態度を修得することを主な目的とします。それに続く病院実習では、病院薬剤師の業務（注射薬を含む調剤、製剤、病棟業務など）とともに、チーム医療に参画するための基本的な知識、技能、態度を修得することを主な目的とします。病院・薬局実習を通して、これまでに大学で学んできた知識・技術をより実践的なものとする、コミュニケーション能力の向上に努めること、医療人に必要な倫理観や社会性を身につけることが重要です。また、卒業後の進路について考える非常に良い機会になるでしょう。感染症対策と体調管理に気を配り、積極的な態度で実習に臨んでください。また、実習先では、多くの業務を抱え、多忙な中、指導して下さる先生に感謝の気持ちを持って、1日1日の実習に取り組んでください。

5年次のもう一つの重要な科目は卒業研究です。薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいて薬剤師として求められる基本的な資質の1つに「研究能力」があげられています。卒業研究は、薬学部6年間の学びの中で、研究能力を養うことができる唯一の科目といっても過言ではありません。与えられた研究課題に取り組み、実験・調査などを通じて「未知あるいは未解決の問題」に対する答えを追究するプロセスを経験することが期待されます。卒業研究を通して、論理的思考や問題解決のためのアプローチ法、研究倫理、自身の研究を他者に伝えるプレゼンテーション能力、そして研究を進める上で大切な粘り強さを身につけてください。本格的な卒業研究は、医学部や看護学部にはない、薬学部独自のプログラムであり、ここでの経験は、将来どのような分野に進んだとしても薬学部出身者のアイデンティティとして皆さんを支えるものになります。

5年次はこれまでの座学中心の大学生学とは異なり、忙しい一年となると思います。実り多き5年次を過ごされることを祈念しています。

2026年度5年次学年主任

奥脇 暢（生化学教室・教授）

6年次の学修について

新6年生の皆さん、進級おめでとうございます。北里での大学生活も、いよいよ最後の年度となりました。最終年次は、チーム医療演習、卒業研究成果の発表と卒業論文の提出、薬学総合演習など、卒業に向けて忙しい日々を過ごすことになると思います。

「チーム医療演習」は、相模原キャンパスにおいて、4月30日と5月1日の2日間にわたって実施されます。本学ならではの特色ある教育プログラムの1つになっている、医療系学部在籍する学生が将来の職種によってチームを編成して取り組む実践的な演習です。他学部の学生と交流できる貴重な機会であり、この機会を十分に活用して、他職種との連携や医療チームにおける薬剤師の役割について理解を深めてもらいたいと思います。

「卒業研究発表会」は、7月4日にポスター形式で行われます。4年生の1月から取り組んできた卒業研究の内容を他者にわかりやすく伝えることを心がけてください。発表用ポスターと卒業論文は、自分自身で深く考えて納得のいくものに仕上げてください。研究の過程を通して身につけた問題発見・解決能力、論理的思考能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などは、将来、皆さんを支える力になります。是非、積極的に取り組みましょう。

後期からは「薬学総合演習」が始まります。今まで学修してきた知識を体系的に学びなおすことで、実践的な薬剤師としての能力を養います。単なる知識の暗記にとどまらず、物事を論理的に理解し体系的に結び付けていくことが大切です。教科間連携を意識しながら取り組みましょう。過去3年間の薬剤師国家試験問題を早めに見ておくことも、知識の見直しに役立ちます。分からないことがあれば、先生に質問したり、友人同士で話し合ったり、自分で調べたりして、その都度、解決しておくことも大切なことです。

6年次の一年間は、これまでの薬学部での学びを集大成する一年であり、特に後期は薬剤師国家試験までの大切な時期となります。体調管理に十分気を付けながら、計画性をもって過ごすようにしてください。

学生生活や学修等で困ったことがあれば、チューターや学年主任はじめ、教職員一同、皆様に支援できる態勢を整えていますので、遠慮なく相談してください。

皆さんの学生生活最後の一年が充実した年になることを祈念しています。

2026年度6年次学年主任

成川 衛（医薬開発学教室・教授）